

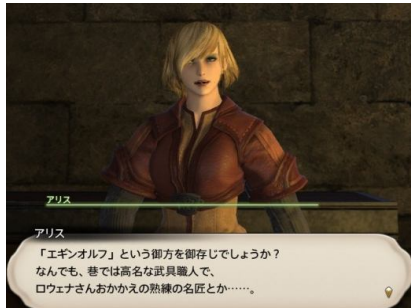
テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

## FF14 備忘ログ(PATCH2.3) サブクエスト



## 虹色の戦装束

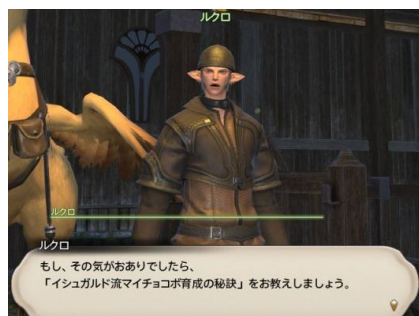
アリス： ようこそ、◆◆◆様。本日は、貴方様に折り入ってお願いしたいことがあるのです。  
「エギンオルフ」という御方を御存じでしょうか？ なんでも、巷では高名な武具職人で、  
ロウエナさんおおかえの熟練の名匠とか……。  
その御方は、ここ「セブンスヘブン」の常連様なのですが、最近、よく深酒をして、愚痴ばかりこぼしているのです。  
どうやら、仕事で行き詰まっているようでして……。  
おそらく、エギンオルフ様の悩みを解決するには、貴方様のような、熟練の冒険者の助言が不可欠……。  
よろしければ、彼の話し相手になってはいただけませんか？



エギンオルフ： ううう……困った……ああ、何も思い浮かばない……。……おや、あなたは？ そうですか、アリスさんに頼まれて来たのですね。  
私は、エギンオルフ。ロウエナ女史に隷属……。……もとい、専属契約させていただいている武具職人です。  
私の製作した「復古調装備群」をご存知ですか？ 伝承に伝わる「古のジョブ」の戦装束を、現代に復刻したもので、  
冒険者の間で大評判となりまして、一世を風靡したものです。  
……ですが、最近は取引量がめっきり減りまして、ロウエナ女史の眼光は、ますます鋭くなる一方。  
しまいには「今までにない斬新な武具を作れ！」……。と。  
無茶だと思いませんかっ！ 斬新な武具なんて、そうそう思いつくわけがないでしょうに！  
……はあ、そういうわけで、途方に暮れているのです。  
おや？ 冒険者さん、あなたはもしかして……。やはりそうだ！ あなたは「古のジョブ」の戦装束……。  
アーティファクト装備を、現代に蘇らせたという冒険者では！？  
素晴らしい！ 一度お会いしたいと思っていましたのですよ！ 私の「復古調装備群」も、原型には遠く及びませんでした。  
歴史のある装備は、やはり格が違った……。  
……そうか。アリスさんが私の元に、あなたを遣わせた意味が分かりました。  
武具を知るには、まずそれを使う者……。すなわち冒険者のことを知ることが肝要。  
「基本に立ち返れ」という当たり前のことを忘れていました。  
なんだか新たなアイデアが浮かびそうです！ ありがとうございます！  
お礼と言っては何ですが……。あなたが使い込んだ、そのアーティファクト装備を、  
自分好みに染色できるよう調節して差し上げましょう。  
調節に必要な「補強材」を持ってきてください。アーティファクトとともに、そこにいる私の弟子、  
「カカラン」に渡していただければ、すぐさま調節しますから！

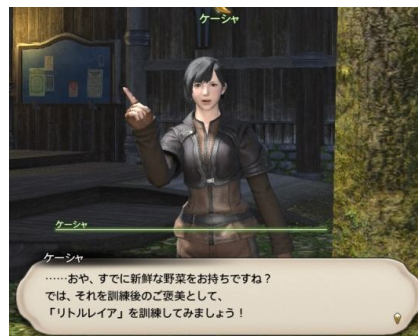
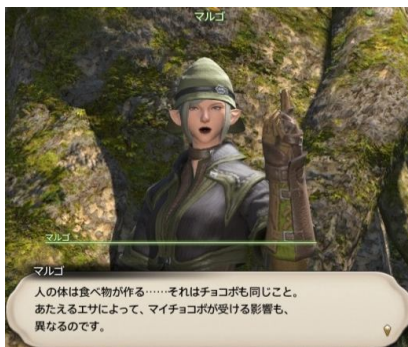
## マイチョコボ育成の秘訣

ルクロ： こんにちは、マイチョコボの調子はいかがですか？ マイチョコボは実戦を重ねることで育つものですが……。  
日々の訓練で育成することも大切です。  
……。ふむ、すでにハウスを所有されているならば、マイチョコボの「厩舎」を設置してみたいかがでしょう？  
そうすることで、効率的に育成できますよ。  
もし、その気がありでしたら、「イシュガルド流マイチョコボ育成の秘訣」をお教えしましょう。  
では、マイチョコボ育成の秘訣「その一」……。マイチョコボはハウスの「厩舎」に預けること。  
これで「訓練」したり「エサ」をあたえられます。  
続いて、マイチョコボ育成の秘訣「その二」……。 「厩舎」の手入れは怠らず、常に清潔を保つこと。  
チョコボはキレイ好きで、意外と繊細なのです。試しに、この厩舎を掃除してみましょうか。  
落ちている「野菜クズ」をすべて拾ってください。



**ルクロ**：「野菜クズ」を拾い終えましたか？ でしたら、ゴミは私が預かりましょう。  
……とても綺麗になりましたね。あなたが掃除してくれたおかげで、チョコボたちも、とても気持ちよさそうにしています。  
実際の掃除では「マジックブルーム」を使用するので、しっかり準備しておいてくださいね。  
続いて、マイチョコボ育成の秘訣「その三」は、……ですが、この説明については、私よりも適任者がいます。  
この牧場で、エサとなる野菜を栽培している「マルゴ」です。彼女から、マイチョコボのエサを分けてもらってください。  
エサについても詳しく教えてくれるでしょう。

**マルゴ**：……マイチョコボのエサがほしいですって？ でしたら、ちょうどいい野菜がありますよ。  
私たちは、愛するチョコボが健やかに育つよう、心をこめて野菜を育てています。  
あなたもマイチョコボの育成をするつもりなら、ハウスの畑で野菜を栽培してみても？  
それを食べれば、マイチョコボは立派に育つことでしょう。  
人の体は食べ物を作る……それはチョコボも同じこと。あたえるエサによって、マイチョコボが受ける影響も、異なるのです。  
そうですね、マイチョコボが好む代表的なエサを、紹介しておきましょう。  
代表的なご褒美は「カラッカの野菜」です。ほかにも特定の能力を伸ばさせる各種の野菜がありますね。  
これらの野菜をあたえる数を調整することで、理想のマイチョコボへと育成することができるよう。  
ただし、チョコボにだって好みがありますから、しっかり理解してあげてくださいね。  
そうそう、カラッカの種はお店で売っていますから、栽培や他の野菜との交雑に挑戦してみてくださいね。  
そうすれば、いろいろと試せるはずですから。  
はっ私ったら、つい長々と……。マイチョコボへのエサが必要だったんですね？  
さあ「新鮮なカラッカの野菜」をどうぞ。



**ルクロ**：マルゴから、マイチョコボのエサを分けてもらえましたか？  
……なんて新鮮でおいしそうな野菜でしょう。いいエサを譲ってもらえましたね。  
さあ、これでマイチョコボを訓練する準備が整いました。  
マイチョコボ育成の秘訣「その四」…… いよいよ、マイチョコボの訓練に関する秘訣です。  
ちょうど「**ケーシャ**」がチョコボの訓練をしていますから、彼女に話を聞いてみてください。

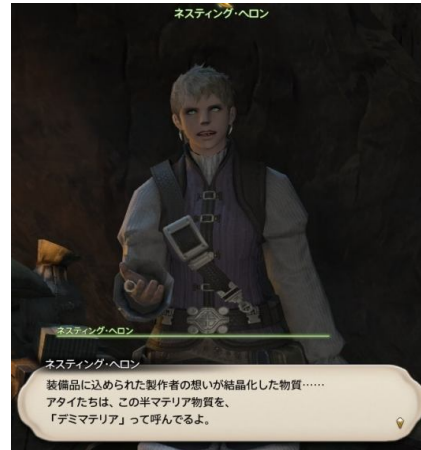
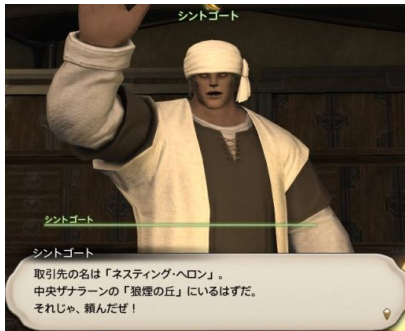
**ケーシャ**：よく来てくれました。……マイチョコボの訓練について教えてほしいですって？  
マイチョコボを「厩舎」に預ければ、「訓練」を行えます。訓練が終わったら、必ずご褒美にエサをあげてくださいね。  
つまり訓練を始める前に、エサを準備する必要があるのです。  
訓練の成果は、「厩舎」の状態やご褒美のエサの種類で変わってきますが……マイチョコボへの愛さえあれば、難しいことはありません。  
……おや、すでに新鮮な野菜をお持ちですね？ では、それを訓練後のご褒美として、「**リトルレイア**」を訓練してみましょう！

**ケーシャ**：うまくチョコボを訓練できましたね、さすがです。あなたほどの腕前ならば、  
きっとどんなチョコボも、うまく訓練できるはず。  
「厩舎」を、ほかの冒険者と共有している場合は、仲間のマイチョコボの世話もすることができるんです。  
例えば、「厩舎」を手入れすれば、仲間のマイチョコボ育成を手伝うことになるのです。  
進んで、マイチョコボのお世話をしてあげてくださいね。  
……私から伝えられることは、これぐらいです。「ルクロ」のところに戻って、続きを聞いてみてください。

**ルクロ**：よかった、訓練はうまくいったようですね。「厩舎」でのマイチョコボ育成の秘訣については、  
これで、ひととお伝えしました。  
早速、あなたの家に「厩舎」を設置して、マイチョコボを頼もしい相棒へ育て上げてください！  
成長したあなたのチョコボに会える日を楽しみにしていますよ！

## 想いを紐解く力

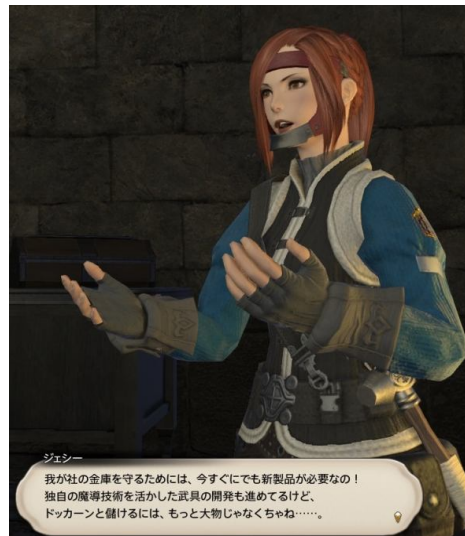
シントゴート：困ったことになっちゃったな……。何がって、注文した商品が届かないんだよ。  
そうだ、アンタ、冒険者だろ？ よかったら取引先のところまで、ひとつ走りしてくれないか？  
早く注文した品を発送してくれて、どやしつけてくれ。  
「使いっぱい」は嫌だって顔をしているな……。でもきっと、アンタにとって、耳よりな情報を聞けるはずだぜ。  
取引先の名は「ネスティング・ヘロン」。中央ザナランの「狼煙の丘」にいるはずだ。それじゃ、頼んだぜ！



ネスティング・ヘロン：……。シントゴートさんの使いだって？ 商品の件なら、たった今、発送準備が終わったところさ。  
少々、「分解」作業に手間どっちゃってね。  
シントゴートさんには、納品がてら、ちゃんとアンタがケツを叩きに來たって伝えておくよ。  
……。ん？ 「分解」とは何のことかだって？ なるほど、アンタもミュータミクス師から教えを受けた職人だね。  
だったら良い機会だ、説明してやるよ。  
いいかい、「分解」ってのは、ミュータミクス師が編み出した新しい技術でね。  
装備品をバラして、原材料の素材を取り出す技なんだ。  
不要品から、有用な素材を回収しようってワケさ。それと、運次第ではあるんだけど、  
「分解」時に、面白い結晶が生成されることがあるんだ。  
装備品に込められた製作者の想いが結晶化した物質……。アタイたちは、この半マテリア物質を、  
「デミマテリア」って呼んでるよ。  
「デミマテリア」は、既存の武器にさらなる力をあたえたり、新しい武器の素材として使える有用な代物でね。  
それに、不思議な輝きを放っているから、宝石としても、それなりの価値を持っているのさ。  
だから、そこの商人に売ってギルを稼いでもいいかもね。  
さあ、理解できたら、アンタも「分解」を試してみな。資源を有効に再利用しつつ、運次第で一攫千金っ！  
……。どうだい、悪くない話だろう？

## 魔導仕掛けの友

スラフボーン：おお、冒険者か。お前を訪ねて、客人が来ているんだ。なんでも、シドの知り合いだとか。  
これが、なんとも気の強い女性でなあ。お前に会うまで帰らんと、すごい剣幕なんだ。  
とにかく、この中の工房で待っているから、会ってやってくれ。  
さっそく会いに行ってくれるか？

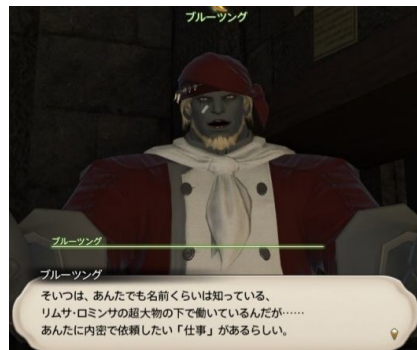


ジェシー：……あなたが、◆◆◆？ はじめまして、私の名前はジェシー。「ガーロンド・アイアンワークス」の会長代行よ。一介の技師のはずの私が会長代行……なぜだかわかる！？ それもこれも、あなたがシド会長をたぶらかして、遊び回らせているせいよっ！  
ハイウィンド飛空社の仕事で食いつないではいるけど、シド会長が遊びまわって会社をほったらかしにしてるせいで、業績は下がる一方……残された社員は苦勞しっぱなし……。  
我が社の金庫を守るためには、今すぐにでも新製品が必要なの！ 独自の魔導技術を活かした武具の開発も進めてるけど、ドッカーンと儲けるには、もっと大物じゃなくちゃね……。  
そういえば、ビッグスとウェッジから聞いたんだけど、あなたって、帝国軍の魔導アーマーを持っているんでしょ？ 新製品開発の参考にするから、見せてちょうだい。  
……イヤとは言わせないわよ？ これはシド会長を連れ回している、あなたの義務だからね！  
うへん！ この曲線美……帝国製の味よねえ♪ 青燐機関が紡ぐ駆動音も、耳に心地いいわ……。  
制御装置は……って、あら？ これ、魔法人形のコアを使っているのね……代替品かしら。  
そうか、これなら、エオルゼアでの量産だって……。  
……むむっ？ 魔導カノン砲の収束器が焼き切れてるじゃない！ きっとバカな操縦士が、ムチャな臨界稼働をさせたのね。ちお、この子ったら、なんて可哀想かしら……。  
やだ！ 聞こえちゃったかしら？ うかつ……こんなところを見られるなんて……。  
……と、とにかく、あなたはこの子を乱暴に使いすぎよ。私が修理してあげるから、責任を持って手伝いなさい。  
そうね、「XLIX式魔導収束器」と「L式魔導発振器」。それから「L式魔導バレル」があれば、なんとなるわ。  
さあ、今すぐ調達してきなさい！  
……どこでって、あなたバカなの？ 帝国製品なら、近所に「カストルム・セントリ」があるでしょ！  
あそこに潜り込めば、物資の入ったコンテナが転がってるわよ。

ジェシー：それで、どうだったの？ 部品は全部集まったんでしょね？  
……ほんとに集めてきたんだ。私、スッガーンと根にもつタイプだからさ。  
会長を連れ回してる腹いせに、無理いってみたんだけど……。  
シド会長が、あなたを頼りにする理由、解った気がする。まあ、約束は約束だから、修理してあげるわ。  
この子も、このままじゃ可哀想だしね。  
ふう……こんなところかしら？ とりあえず、「魔導カノン」と「魔導フォトン砲」を撃てるようにしたいわ。  
正式な整備設備がないから、完全にとはいかなかったけど、「空打ち」することくらいは、できるんじゃない？  
フフ、久しぶりにメカをいじったら、何だか燃えてきたわ。私、導火線に火がついたかもよ！？  
新製品開発、ドッカーンとやっちゃうんだから！

## 霧晴れしハルブレーカー

ブルーツング：◆◆◆だよな……。よかった、あんたの来店を待っていたんだ。昔なじみに伝言を頼まれていたもんでね。  
そいつは、あんたでも名前くらいは知っている、リムサ・ロミンサの超大物の下で働いているんだが……。  
あんたに内密で依頼したい「仕事」があるらしい。  
こういうでかいヤマが、名指しで入ってくるなんて、冒険者としての名前が売れてる証拠ってヤツだな。  
……さて、俺が話せるのはここまでだ。この仕事に興味があるなら、「リムサ・ロミンサ」にいる、「**デinston**」って男に声をかけてみてくれ。



デinston：アンタが◆◆◆……。？ わざわざ出向いてくれて、助かるぜ。さっそくだが、仕事の話させてもらおう。  
……「霧髭」って知ってるかい？ リムサ・ロミンサで語り継がれる、伝説の海賊王さ。  
ウルダハの財宝船の略奪をはじめ、数々の武勇伝で知られる存在なんだが……。  
ある日を境に、ロータノ海から忽然と姿を消しちゃった。  
それ以来、何度となく「霧髭の隠し財宝」の噂が、出では消えてを繰り返しているんだがな。  
今回の仕事っていうのも……

????：そこからは、俺が説明しよう……。

デinston：お、おカシラ！？



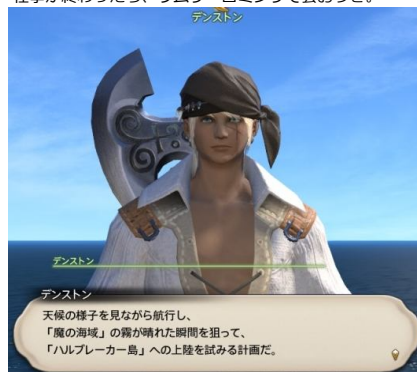
**エインザル**： マーチ・オブ・アルコンズの時には、世話になったな……。だが、今回の話は「黒渦団」がらみの任務じゃない。「個人的な要望」ってヤツだ。  
「霧髭の隠し財宝」の噂が、最近、再び広がり始めているのは知っているか？  
ここバイルブランド島の南方、ロータノ海に浮かぶ「**シェルダレー諸島**」……。  
その外れに、常に霧が立ちこめている海域がある。  
……人呼んで「魔の海域」。この辺りの船乗りなら、座礁を恐れて近づかない場所に、  
ある商船が迷い込んだ……ってのが、ことの始まりだ。  
霧で迷い込んだんじゃない。第七霊災における環境の変化で、その海域も条件によっては、  
霧が晴れる日ができるようになったのさ。  
件の商船も、その日に霧が晴れていたがゆえに、そこが「魔の海域」だと気付かなかったようだ。  
そして、乗組員は「魔の海域」にある無人島で、朽ち果てた船を発見した。  
……消えたはずの霧髭の旗艦「**ハール号**」。  
頼みというのは、ほかでもない。この島に赴き、「ハール号」に残されているはずの、「**霧髭の金箱**」を回収してきてほしいのだ。

**デンストン**： 有能な冒険者のアンタに頼みたいって、おカシラの希望だね。「霧髭の隠し財宝」を手に入れるチャンスだ。  
アンタにとっても、悪い話じゃなからう？

**エインザル**： この仕事は、個人的な要望であり、重要な使命でもある。……ここはひとつ頼んだぜ！

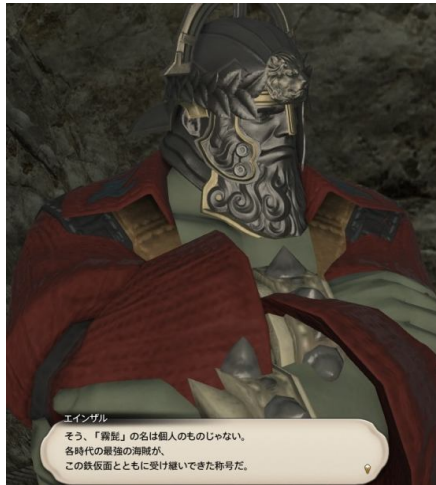
**デンストン**： その無人島、「ノルブレーカー島」までの船は、「モラビー造船廠」に用意してある。現地で俺と合流しよう。

**デンストン**： 準備は整ったか？ 噂を聞きつけたトレジャーハンターどもが島に殺到する前に、仕事を片付けちまおうぜ！  
天候の様子を見ながら航行し、「魔の海域」の霧が晴れた瞬間を狙って、「**ノルブレーカー島**」への上陸を試みる計画だ。  
島に眠る廃船「ハール号」から、是が非でも「霧髭の金箱」を回収してくれ。  
仕事が終わったら、リムサ・ロミンサで会おうぜ。



デNSTON : よお、首尾は上々のようだ。さっそくだが、回収してきた「霧髭の金箱」を確認させてはくれないか？  
ふむ、こいつは確かに本物のようだ。錠前も閉じたまま……開けられた様子もない。  
さすがは、噂の冒険者だけはあるな。見事に「霧髭の金箱」を回収するとは！

エインザル : お前が帰還したと聞いて駆けつけたが……。うむ、間違いなく本物のようだ。感謝するぞ、冒険者。  
……中身が気になるか？ コイツを手に入れるために、命を懸けてくれたんだ。当然、知る権利ってヤツがあるだろう。  
実はな、霧髭が「霧髭」と呼ばれた理由が、この金箱の中に隠されている……。  
どうだ、この鉄仮面は？ 海風に濡れて不気味に光る、おぞましい鉄仮面……。  
歴代の霧髭が、その正体を隠すために被っていた代物だ。  
そう、「霧髭」の名は個人のものじゃない。各時代の最強の海賊が、この鉄仮面とともに受け継いできた称号だ。  
……だが「最後の霧髭」は、ひとりの女が掲げた理想に惚れ込んでしまった。海賊時代を終焉させるという夢にな……。  
リムサ・ロミンサは、流民が造った街。支配を嫌い、貧しさから脱却するために海賊となった者も多い。  
だが、いつまでも海賊業を続けていては、他都市と手を握り合うことなどできようはずもない。  
ゆえに海賊は消えねばならんと、その女は説いた。  
……では、女の理想を叶えるため、「霧髭」に何ができる？  
「霧髭」は受け継がれていく称号……。死んでも名を継ぐ者が現れるのなら、生きたまま消え去るだけ！  
……「最後の霧髭」は、そう思ったようだ。  
この鉄仮面が、どこぞのバカの手に移れば、次の「霧髭」が現れ、海賊復活の旗印になりかねん。  
今度こそ、完全に封印するでしょう。……その名とともに。  
デNSTON、後は手はずどおりにな……。



デNSTON : 任せましたぜ、おカシラ！ じきに隠し財宝の噂も、霧のように晴れるはずですよ！

## タムタラの薄明るい底で

パイヨ・レイヨ : ……ひっ！  
……ア、アンタは、あの時の冒険者！？ こんな状況で会うなんて笑えない……。  
あ、ああ、すまない。自己紹介をさせてくれ。俺の名はパイヨ・レイヨ……アンタと同じ冒険者だ。  
アンタ、サスタシャ浸食洞の一件を解決した冒険者だろう。……そして、エオルゼアを救った英雄だったな。  
冒険者ギルドじゃ、有名な話だ。  
……ところでアンタ、覚えてないか？ 「エッダ」っていう幻術士の女のことを……。  
当時、俺はアイツとパーティを組んでいたんだ。だけど、リーダーを務めてた「アヴィール」って野郎が、  
功を焦って死んでしまった……パーティは解散になった。  
そんな後味が悪い出来事があったもんだから、奴らとは、二度と会うつもりもなかったんだが……。  
……届いたんだよ。エッダから「結婚式」への招待状が……。  
普通だったら喜んでやるべきなんだろう……。……だが、俺は薄ら寒いモンを感じたね。  
何せ結婚相手が、あのアヴィールだっていうんだからな。  
それも式場が寄りにも寄って、あの「タムタラの墓所」だ！ アヴィールは、あの墓所で魔物に殺されたんだぞ……！？  
……招待状には、同じパーティの一員だった、「リアヴィヌ」と一緒に来てくれと書いてあった。  
そういえば彼女は、あれからしばらくして、「晩の血盟」に加わったと聞いたんだが……あんた関係者だろう？  
彼女と連絡が取りたいんだが、居場所を知らないか？  
な、なんだって……帝国軍の襲撃で死んだって！？ ……そうだったのか。口は悪いが、根は良い奴だったのにな……。  
……ふむ、リアヴィヌは「聖アダマ・ランダマ教会」の園墓に埋葬されているんだな。  
今度、花でも手向けに行ってみるか……。  
……さてよ……なんだか、嫌な予感がしやがる……。な、なあ、「リアヴィヌの墓」を見に行こうぜ……。  
いや……頼む、このとおりだ、アンタも一緒に来てくれ！



パイヨ・レイヨ : この墓地にリアヴィヌが……。  
 ……なに！？ マ、マジかよ……最悪じゃねえか！！ この荒らされた墓が、「リアヴィヌの墓」だって？  
 なんてことだ……。クソッ……クソッ……クソツタレ！ ……何も入っていないじゃないか！  
 嫌な予感が当たっちゃった……。……まさか、エッダの仕業なのか……。  
 俺が結婚式に行くためにリアヴィヌを探せば、必然的に、この墓に辿り着く……。……そして、そこに何も無いことを知る。  
 エッダは、リアヴィヌが死んでいると知っていて、俺に結婚式の招待状を送った……。  
 この状況を、俺に確認させたかったってのか……。  
 なぜだ、いったい何のために！？  
 確かに俺は出来た人じゃない。あの時……奴らとパーティを組んでいた時だって、  
 エッダとアヴィールの関係に付け込んで、好き放題やってたさ。  
 だが、ここまでの仕打ちをされる覚えはないぞ！ それに、許せねえ……死んだアヴィールとの結婚式だと！？  
 そんな、自分勝手なごっこ遊びのために、リアヴィヌの眠りを妨げていいわけないだろ！  
 ……クソッ、エッダの奴、何を考えてやがる。  
 なあ、アンタ。エッダとアヴィールの結婚式とやらに行かないか。  
 式場に指定された「タムタラの墓所」に行って、エッダの行動を止めさせるんだ！ 俺は先に向かう、現地で会おう！



ウグモン : ララフェルの男を見なかったか、だって？ それならさっき、真っ白な服を着たお嬢さんと一緒に、墓所内に入っていたぞ。  
 お嬢さんはニコニコしていたんだが、男の方は、えらく緊張した顔だったな……。まあ、墓地が苦手な人もいるからな。  
 君も墓所内に入るのか？ 墓地が苦手ならば、心の準備をしておくといい。



手記：あれから、何日が過ぎただろう。今日、ウルダハのクイックサンドで、あの冒険者と会った。  
わたしの最愛の人が氣にかけていた冒険者だ。わたしは、冒険者に思いの丈を伝えた。  
そして自分に、前を向いて生きようと誓った。

手記：わたしとあの人が育った故郷に帰ってきた。子どもの頃には広く感じた村も、今では何だか、とても狭く感じる。  
わたしが世界の広さを知ってしまったからだろう。そう、わたしとあの人は、ともに夢見た。  
広い世界での胸躍るような冒険を。やっぱり、この狭苦しい村は、あの人に相応しくない。  
冒険に出よう。もう一度、あの人といっしょに。

手記：初めてのモードゥナ。クリスタルに満ちた銀泪湖は美しく輝き、まるで、わたしたちの訪れを祝福しているよう。  
湖のほとりで、あの人と見つめ合う幸せな一時。日が暮れるまで、ふたりきりの時間を過ごした。  
これからずっと一緒に……あの人の言葉が嬉しかった。

立会人リアヴィズ：だから、あたしは……嫌いだったのよ…… キモチ悪い……やつ……。

手記：最近なんだか、あの人の顔色が悪い。やっぱり、ザナランに來たのが悪かったんだ。あの人は熱いのが苦手だから。  
凍てつくように寒いクルザスに行こう。そうすれば、きっとあの人だって元気になる。  
そうすれば、耳で囁くこともやめてくれるはず。

手記：うん、わかってる。わかってるよ、自由に動ける身体がいるよね。そんなに毎日毎日毎日、囁かないでもいいんだよ。  
何も言わなくて、あなたが言いたいことはわかるの。だって、わたしはあなたのお嫁さんになるんだから。  
だからもう、囁き続けるのはやめて。あなたにふさわしい身体を見つけるから。

手記：ごめんね、なかなか、あなたに合う身体が見つからないの。あなたは、エオルゼアに名を馳せる冒険者になるのだから、  
中途半端な身体じゃダメ。それに、わたしわかってきたの。身体だけあってもダメだって。  
立派な冒険者には、立派な魂が必要なんだって。強い身体には、強い魂がいる。  
弱い魂しか見つからないなら、たくさんの魂が。もう少しの辛抱だからね、待っててね、あなた。

パイヨ・レイヨ：み、身動きがとれない！ 誰か……誰か、助けてくれえ！  
はあ、はあ、はあ……。た、助かった……恩に着るぜ……。  
な、なんで俺が、こんな目に……。アイツに関わるのは、もう懲り懲りだ……。

手記：ここには、からだがいっぱいあるの。いっぱいいっぱいいっぱいいっぱいあるの。だから、きっとあなたもげんきになるわ。  
そうしたら、けっこんしきをあげようね。わたしたちは、あたらしいせかいにたびだつの。

手記：けっこんしきには、みんなもよぼうね。きつとばーていのみんなも、しゅくふくしてくれるよ。  
あんなになかがよかったんだもの、おくりものをもってかけつけてくれるよ。  
きつと、たましいだってくれるはずよ。

エツダ：私とアヴィールを祝福するために  
みんなが贈物を持ってきてくれたのよ  
あなたが氣にかけていた冒険者も  
ほら とっておきの身体を持ってきてくれたわ！

純白のエツダ：ふふふ……わたしたちの結婚式にようこそ…… あなた、あの冒険者が来てくれたわよ？  
立会人さん、どこなの？ もう式は始まっているわ、来てちょうだい！  
わかってる、わかってるわ…… 新しい身体が欲しいよね？  
病める時も、健やかなる時も…… わたしたちは、ずっと一緒に……永遠に……。  
だから、させない…… 邪魔はさせないわ！

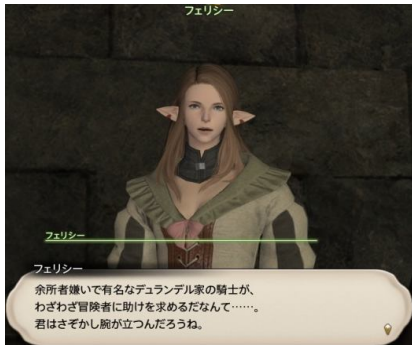
エツダ：そんな なんてこと……  
ああ…… アヴィール……アヴィール……！

パイヨ・レイヨ：皆の用いがすんだところさ。……俺は故郷に帰るよ。もう、冒険者を続ける氣力を失くしちゃった……。  
アンタも、この件は忘れてくれ。迷惑をかけたな……。  
なっ、どうして……！？ ひっ……悪かった……俺が悪かった！ やめてくれ！ もう、付きまとわないでくれ！！  
うわあああああ！！



## 悲願なる城塞奪回

**フェリシー**：もしかして、◇◇◇か？ おお、よかった！ 実は、君を探している人物がいるんだよ。  
少し前に、ドラゴン族に占拠されたクルザスの対ドラゴン要塞、「ストーンヴィジル」に潜入した冒険者ってのは、君のことなんだろう？  
要塞を包囲していたイシュガルドの軍勢が、ついに奪還作戦を決行したようなんだ。  
ドラゴン族と派手に一戦やらかつもりらしい。  
作戦の指揮をとっている騎士、ドリユモン卿が、君に助力を願うために探し出すよう、方々に声をかけていてね。  
それで私も雇われていたんだよ。  
余所者嫌いで有名なデュランデル家の騎士が、わざわざ冒険者に助けを求めるだなんて……。  
君はさぞかし腕が立つんだろうね。  
**イシュガルド生まれの私**からもお願いしたい。クルザス中央高地の「ホワイトプリム前哨地」で待つ、「**ドリユモン**」卿の下へ、急ぎ向かってくれ。



**ドリユモン**：よくぞ我々の呼びかけに応じ、駆けつけてくれた。どうか、今一度、貴公の力を貸してほしい。  
聞き及んでいることだろうが、我らは、ついに「ストーンヴィジル奪還作戦」を決行した。  
すでに第一陣は、要塞内への突入に成功している。  
だが、敵も然る者……。異端者を招き入れて防備を固めておってな。戦いは、一進一退の膠着状態といったところだ。  
さらに第一陣の突入後、奴らは主門を破壊して籠城。陸路からの突入口が塞がれてしまっている。  
このままでは、要塞内の味方が孤立してしまう。  
私は第二陣を率いて、飛空艇による突入を試みるつもりだ。貴公にも、ぜひ加勢を願いたい。  
急ぎ、ストーンヴィジル前へ赴き、我が部下「ナトゥラン」と合流してもらえだろうか。  
私も、飛空艇の準備が整い次第、向かうつもりだ。

**ナトゥラン**：ドリユモン隊長から伺っております！ 突入のための飛空艇は、間もなく到着します。それまで、お待ちください。  
あなたが砦に潜入して無事に生還したと聞いたとき、我々騎兵は、その偉業にみな心を熱くしたものです。  
あなたが戦列に加われば、全軍の士気も上がりましょう！  
長らくドラゴン族に蹂躞されてきた、この砦……。今こそ奪還し、再び、我らイシュガルドの手に！  
戦神リレオナ様の加護があらんことを！



**ドリユモン**：おお、戻ったか！ 貴公のおかげで、悲願を達成することができたぞ！  
……しかし、貴公も見たであろう。ストーンヴィジルは、ドラゴン族によって破壊しつくされていた。  
傷ついた砦を、イシュガルド防衛の要へ再生させるには、長く過酷な修繕作業が必要だろう。  
……砦の奪還は、戦いの終わりではない。そう、ドラゴン族との戦いは、これからが正念場だ。  
我らの剣に改めて誓おう。戦場で戦う同志と、恐怖に震える民たちの悲願……。ドラゴン族との戦いに必ずや勝利すると！

**フェリシー**：ストーンヴィジルの奪還に成功したそうだね。辛く厳しい戦いだっただろうが、生きて戻れたようで何よりだよ。